

【第九回つばきの国俳句大賞】

二月十八日～二十三日、国重要文化財・萬翠荘で、伊予つばき協会主催による「第五十回伊予つばき名花展」が開かれた。

今年も開花は、ほぼ例年並みで、和と洋の椿、愛媛ゆかりの品種から新品種まで、およそ一五〇点の鉢物と切り花が展示された。

今回もこの椿展の開催にあわせて椿の俳句の募集があり、「つばきの国俳句大賞」には、一七三句の応募があった。

椿は、愛媛県松山市の市花で、椿に親しみ松山への愛着を深めてもらいたいと、平成二十九年度には「いい つばき」と語呂の合う一月二十八日が椿の日として制定されている。毎年、椿が見頃となる三月末まで、市内の各所で椿の催しが開かれている。



伊予つばき協会では、萬翠荘での展示の他に、松山城の二ノ丸庭園でも三月に名花展を開催しておられ、今年で第二十九回となる。

今年の「つばきの国俳句大賞」の表彰式は、二ノ丸庭園で、三月十四日に行われた。

□大賞

母と子が並べて遊ぶ落ち椿

仙波伸子

母と子が無心に遊んでいる情景が目につかぶ。並べるのだから、たくさんの椿が落ちているのだろう。椿の木の下に流れている時間は豊かで優しい。

□八木健賞

おつくばみして聞く小言椿の実

関谷昌子

「おつくばみ」は伊予の言葉で、「正座する」「きちんと行儀よく座る」という意味。身を固くして緊張した面持ちで小言をいただく。季語が効いている。

□伊予つばき協会会長賞

手の内を見せず散りたり紅椿

西野周次

一物仕立ての句とも、取り合せの句とも読める。裏側にある事情を決して見せず、悟られることもないきれいな引き際は、散る椿の潔さそのものである。

□伊予つばき協会賞

咲いて椿おちてつばきや光満つ

津島野イリス

枝に咲いて、椿の花として精一杯輝く。地に落ちてはなお、椿としての威厳を失いはしない。椿の美しさと生命力を光で見事に表現している。

□佳作 * 順不同

一陣の風に椿の色動く

上田幸子

白椿品種不明といふ自由

猪上ひろみ

馬耳東風わたしはわたし藪椿

大下美智子

椿落つ路地裏楽し野良の里

森光伸雄

椿咲く雌蕊の翳の濃く淡く

稲田青女

落ちてなほ水に華やぐ落椿

上田桃邨

腰さすり椿にあいさつ母の朝

大森英子

つやつやと蕊のぞかする白椿

入河大河

庭先に先祖の椿白く咲き

関谷美代子

玉椿卒寿の人の赤い服

中野サヨ子

熟田津に波泡立ちて咲く椿

高田ちぐさ

やはき陽や伊予の夢とふ玉椿

東田一鮎

土に咲くなほ美しき落椿

井上京子

懸垂に白き侘助一つ落つ

山高勢子

椿展洋行帰りのあでやかさ

柿並フミ子

ひらきかけつばきのはなに声かける

坂口正廣

道後の湯界限埋めし寒椿

深津健次

掌の中にも一度咲かせ落椿

日根野聖子

逢いたくて命を燃やす紅椿

吉川正紀子

満開の椿万雷の喝采

桑田愛子



右から：西野さん、小泉さん、八木、窪田さん、仙波さん、津島野さん、
関谷さん、高岡紀代さん（表彰式司会）



第九回つばきの国俳句大会

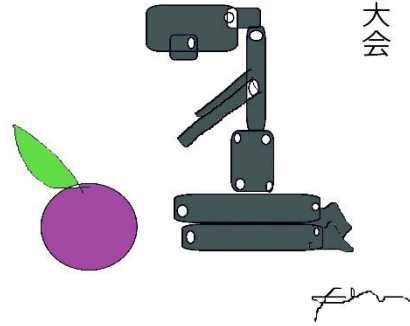
八木健賞

おつくばみ

して聞く小言

椿の実

関谷昌子



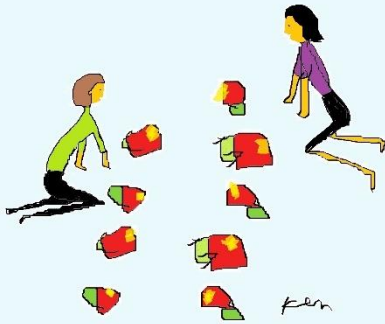
第九回つばきの国俳句大会
大賞

母と子が

並べて遊ぶ

落ち椿

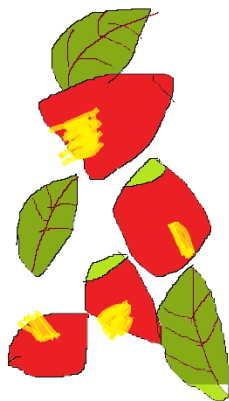
仙波伸子



第九回つばきの国俳句大会
伊予つばき協会賞

咲いて椿落ちてつばきや光満つ

津島野イリス



第九回つばきの国俳句大会
伊予つばき協会会長賞

手の内を見せず散りたり紅椿

西野周次

